市内景気動向調査結果

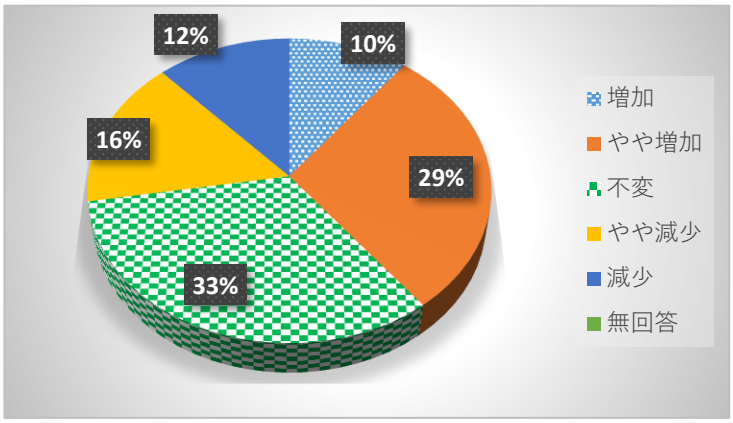
この調査は、第４四半期（令和８年１月から３月）と前年同期間（３ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
76	21	13	5	14	20	3

※その他は、宿泊業、不動産業

１．売上高はどう変化したか。

増加	8
やや増加	22
不変	25
やや減少	12
減少	9
無回答	
合計	76



【コメント】

○ 増加・やや増加が39.5%、不変が32.9%、やや減少・減少が27.6%であった。前年同期では、増加・やや増加が40.6%、不変が31.7%、やや減少・減少が27.7%であった。売上高増加・不変・減少共にほぼ不変であった。

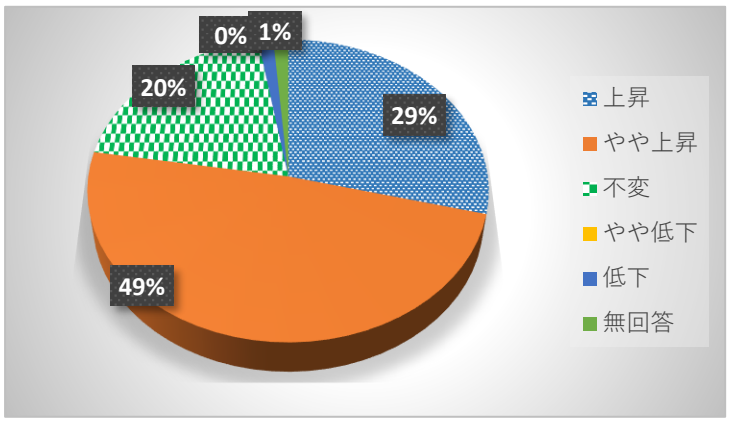
○ 増加・やや増加の業種別割合は、運輸業が60.0%、サービス業が50.0%、建設業が42.9%、卸小売業が28.6%、製造業が23.1%、その他が33.3%。

○ やや減少・減少の業種別割合は、製造業が53.8%、運輸業が40.0%、卸小売業が35.7%、建設業が19.0%、サービス業が15.0%であった。

○ 製造業の悪化が目立っている。

２．仕入単価はどう変化したか。

上昇	22
やや上昇	37
不変	15
やや低下	0
低下	1
無回答	1
合計	76



【コメント】

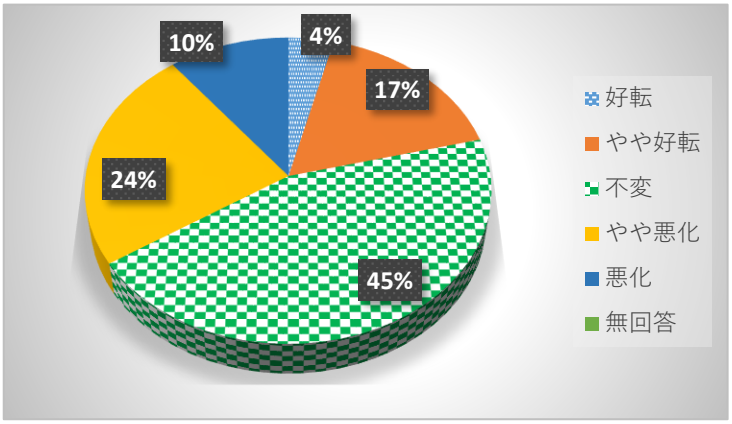
○ 上昇・やや上昇が77.6%、不変が19.7%、やや低下・低下が1.3%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が78.2%、不変が17.8%、やや減少・減少が4.0%であった。

○ 上昇・やや上昇の業種別割合は、運輸業が100.0%、建設業が85.7%、卸小売業が78.6%、製造業が76.9%、サービス業が70.0%であった。

○ 依然として原材料価格や仕入価格が上昇しており、経営に大きなダメージを与えている。

３．採算について

好転	3
やや好転	13
不変	34
やや悪化	18
悪化	8
無回答	
合計	76



【コメント】

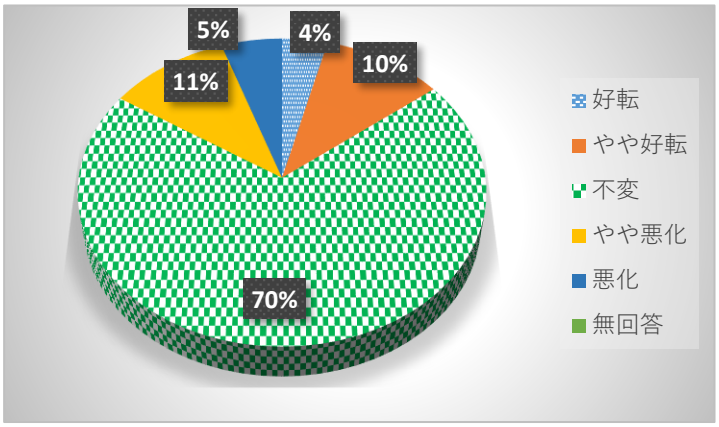
○ 好転・やや好転が21.1%、不変が44.7%、やや悪化・悪化が34.2%であった。前年同期の好転・やや好転が23.8%、不変が41.6%、やや悪化・悪化が34.6%であった。

○ やや悪化・悪化の業種別割合は、製造業が53.8%、卸小売業が42.9%、運輸業40.0%、建設業が28.6%、サービス業が20.0%となっている。

○ 継続的な仕入価格の上昇に加え人件費も増加しており、採算の悪化が長引く可能性がある。

４．資金繰りについて

好転	3
やや好転	8
不変	53
やや悪化	8
悪化	4
無回答	
合計	76



【コメント】

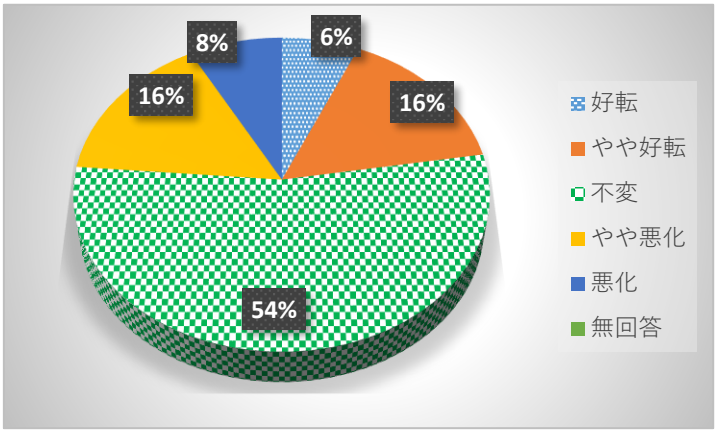
○ 好転・やや好転は14.5%、不変が69.7%、やや悪化・悪化が15.8%であった。前年同期の好転・やや好転が14.9%、不変が66.3%、やや悪化・悪化が17.8%であった。

○ 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業が28.6%、製造業が23.1%、サービス業が20.0%、建設業が14.3%であった。

○ 前年同期に比べて悪化が2ポイントほど改善されている。

５．業況について

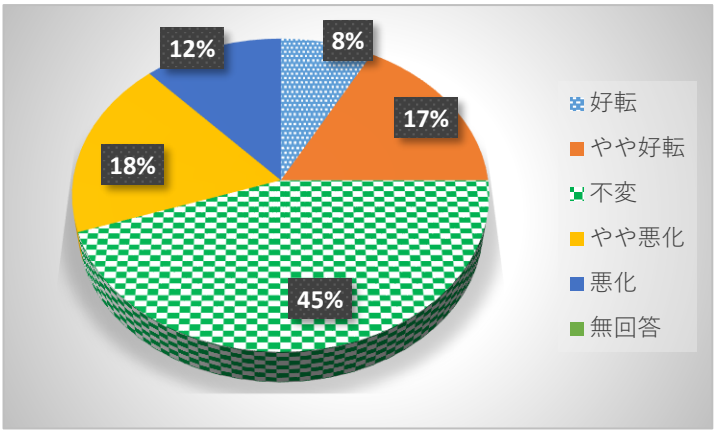
好転	5
やや好転	12
不変	41
やや悪化	12
悪化	6
無回答	
合計	76



【コメント】
○ 好転・やや好転は22.4%、不変が54.0%、やや悪化・悪化が23.8%であった。
前年同期は、好転・やや好転が26.7%、不変が47.5%、やや悪化・悪化が24.8%であった。
○ 良い悪いが二極化している。

６．今後３ヶ月間の業況について

好転	6
やや好転	13
不変	34
やや悪化	14
悪化	9
無回答	
合計	76



【コメント】
○ 好転・やや好転が25.0%、不変が44.7%、やや悪化・悪化が30.3%で、
前年同期では、好転・やや好転が31.7%、不変が40.6%、やや悪化・悪化が24.8%であった。
○ 物価高等の影響で今後3ヶ月間の業況予想でも、好転は程遠い状況。

■回答事業所からのコメント

【建設業】
○ 中東情勢の影響から資材調達の見込みがつかず、先が読めない。
○ 各自治体事業に弊社の商材が合致した為。
○ 1～3月にかけて工期末の仕事収入があったため売上増加。以降は工事はあるものの初期工事の為1～3月とは売上見込みはないと判断
○ 排雪があり売上増加し採算が好転した。今後は手持ちが少なく業況が良くない。
○ 資材及び人件費の高騰により発注件数を抑える傾向にある。
○ 前年の工事代金が令和８年に売上げとなった。
○ 材料費高騰からの収入が減り状況が悪くなっている。
○ 注文・発注・下見・見積・各段階について順調に来ています。

【製造業】
○ 業界は事業所の手持ち仕事にばらつきがあるがラピダス・エスコン関係のサプライチェーンの仕事がこれからも続きそうです。次年度まで仕事の受注はしているが、イラン・アメリカの石油の紛争によるナフサ不足の影響が出てきている。長引くと資材の購入に相当影響が出て市内ので楽観できないのが本音です。

○ 販売先が大きく変わり、以前販売していたメーカーからの切り替えがうまく進まず悪化している。販売先変更に伴い入金サイクルも長くなった為もうしばらく資金繰りの悪化が続きます。
○ トランスの駆け込み需要が昨年あり、売上を押し上げた
○ 当社の中心である茶葉の高騰が大きく影響しており、今後マーケットが縮む可能性がある。ナフサの影響で資材に影響が出ることが予想されます。
○ 当社は医療用医薬品を主な製品とする工場であり、薬価は国が定めるため物価上昇や原材料費の高騰を製品価格に転嫁できない。加えて中東情勢の緊張による石油関連製品の価格上昇・調達リスクの高まりが製造コストの更なる増加をもたらす懸念がある
○ 4～6は補助金制度活用である程度期待はできるが、石油問題の影響で予想不明。

【運輸業】
○ 軽油単価の上昇が見込まれる。
○ 最低賃金の上昇に伴う人件費UPの影響が大きく仕入単価が上昇している
○ 中東情勢の影響もあり、旅行需要が減った。サーチャージの高騰
○ 中東情勢による原油高と一部商品が品薄で市場全体が影響を受け、先行きに不安を感じている。

【卸小売業】
○ 取引先など３社連続による倒産により営業悪化。

【サービス業】
○ Q2は業況としては赤字の減少にとどまり、黒字に導けるのはまだ先。Q7は昨年度６月に臨時収入があり、今年度は見込みない為
○ 臨時休業をとったから
○ 新事業展開により業績アップ
○ 委託費の増額や主催事業により売上高はやや増加するも物価高騰によりコスト増が大きく、業況は悪化傾向にある
○ 新規開設により、生徒数増に繋がっている
○ 公共工事の発注にもよるが資材高騰により顧客への転嫁をできなれれば厳しくなる。今のところは例年通りと考えている。
○ 受注件数の減少・仕入高騰の為。

【その他】
○ 賃貸業ですが、２．３月にかけて退去が多かったので、また同じくらいの入居があり、昨年と変化ないと思う。
○ もっと悪くなると考えていたが、実際にはそれほど変化はなかった。今後は少し悪くなると予想している。
○ 重油・その他原材料費高騰による利益圧迫。